

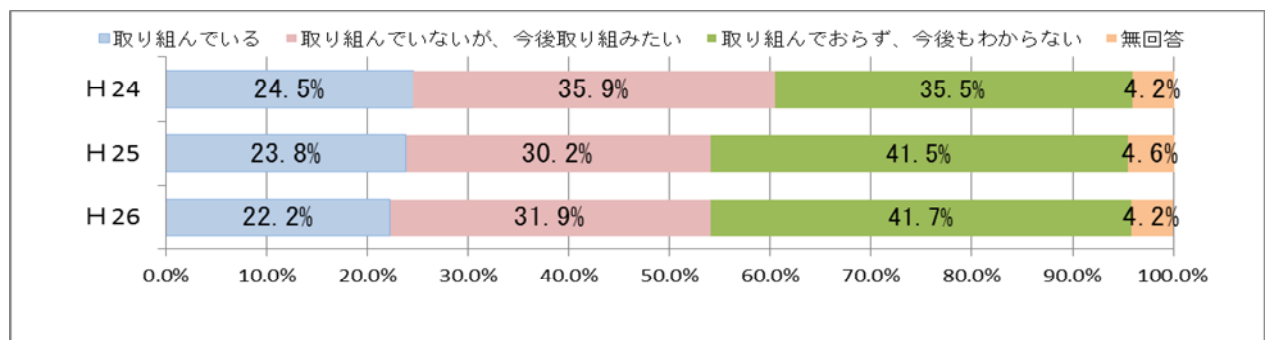
## 2. 生涯学習・文化・スポーツの現状と課題

### (1) 生涯学習

#### 【現状】

- 市内では、県民カレッジ、新川文化ホール、その他民間事業者などによる多様な学習の機会が提供されています。新川学びの森天神山交流館においては、市が企画実施する初心者を対象とした生涯学習教室等各種講座を開設しています。
- まちづくり市民意識調査によると、自ら生涯学習に「取り組んでいる」と答えた市民の割合が減少しています。「取り組んでいないが、今後取り組みたい」と答えた市民の割合が若干増加したものの、「取り組んでおらず、今後もわからない」と答えた市民の割合が増加しています。
- 13地区の公民館では、各地域の生涯学習の拠点として自主的な学習が定期的、継続的に行われています。地域住民のニーズに応えるよう三世代交流事業や高齢者学級の開催など多種多様な学習機会の提供と社会教育活動の推進に努めていますが、公民館を利用する市民の数は年々減少しています。

(図20) 自ら生涯学習に取り組んでいる市民の割合



まちづくり市民意識調査

#### 【課題】

- 市民の学習ニーズを把握し、それぞれの目的にあった学習機会の提供と魅力的な教室開催を支援することが必要です。
- 学習者の意欲向上を図るとともに、多くの市民に関心を持ってもらえるような環境づくりに努める必要があります。
- 公民館が学びの場として、さらには、地域のネットワークをいかしたコミュニティの拠点施設として、より一層有効に活用されるよう検討する必要があります。



絵手紙体験学習



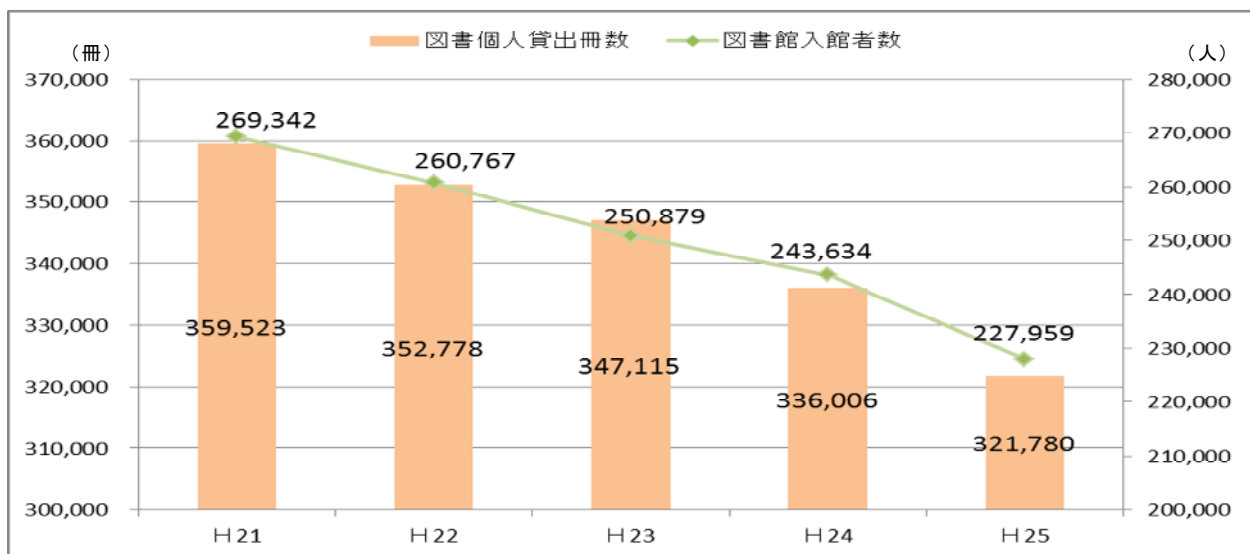
加積りんご教室

## （図書館）

### 【現状】

- 市民の教養を高める場としての図書館では、新刊図書や郷土資料など市民の生涯学習に寄与する資料を収集、提供するとともに、レファレンス・サービス（図書館資料等に基づいて行う相談業務）を行っています。平成21年度からの利用実態を見てみますと、入館者数・個人貸出冊数とも年々減り続けています。
- 心豊かな子どもを育てるために平成25年3月に第2次魚津市子ども読書活動推進計画を策定し、子どもたちが自主的に読書活動を行うことができる環境づくりを進めています。

（図21） 図書館の入館者数及び貸出冊数の推移



### 【課題】

- 子どもから高齢者まで気軽に図書館を利用できる環境整備を進めるとともに、多くの市民から愛され利用される図書館となるよう図書館ボランティア等と連携した取り組みを進めていく必要があります。
- 家庭や地域、学校と連携して、常に子どもたちの身近に本がある環境づくりを進め、幼児期からの読書活動を積極的に推進していくことが大切です。



魚津市立図書館



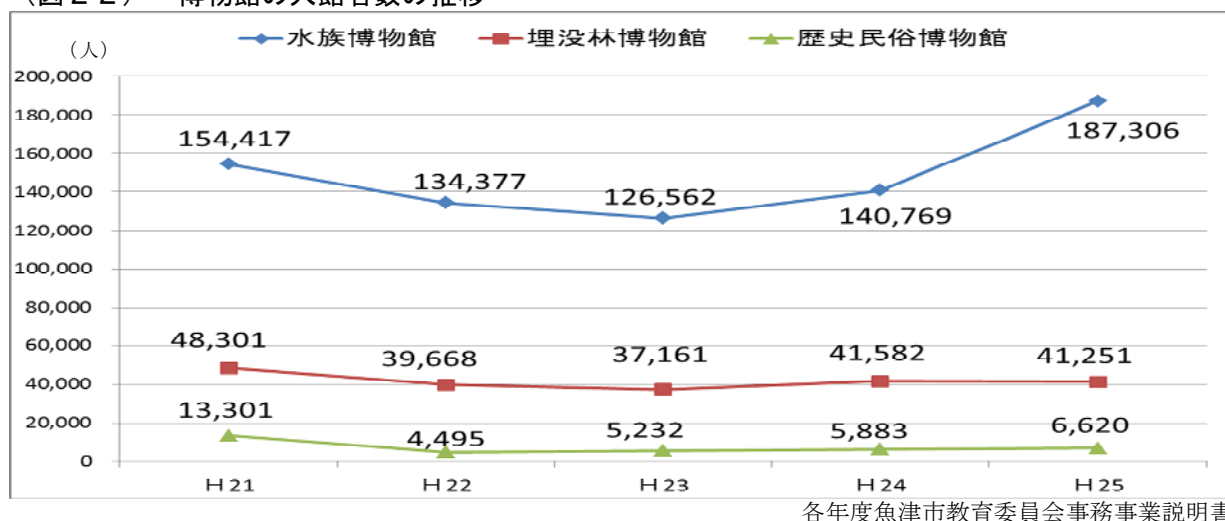
図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせ

## （博物館）

### 【現状】

- 魚津歴史民俗博物館においては、歴史や文化を紹介する企画展の開催等、郷土の歴史や文化財に関する普及啓発活動を実施しています。
- 魚津埋没林博物館では、特別天然記念物「魚津埋没林」及び蜃気楼関連等の常設展示とともに、企画展示や博物館教室を開催し、魚津の自然への理解促進に努めています。平成26年度には、博物館としての魅力を更に高め利用者増に向け、施設と展示のリニューアルを実施します。
- 魚津水族博物館では、富山県唯一の水生生物を展示する水族館として、富山県・富山湾の生物にこだわった展示を行うとともに、企画展や博物館教室を通して、水生生物の魅力を紹介しています。平成24年度末には設備の更新と展示のリニューアルを行い、平成25年度には創立100周年にあわせた企画展示などで、入館者数は大きく増加しましたが、平成26年度は減少する見込みです。

（図2.2） 博物館の入館者数の推移



### 【課題】

- 生涯学習施設として重要な役割を果たしている博物館ですが、魚津市公共施設再編方針に基づき、老朽化した施設の再編や機能集約など具体的に検討していく必要があります。
- より魅力ある博物館をめざして、企画や展示の充実と体験を重視した普及教育活動を更に行っていく必要があります。
- 地域資源を活かした魚津の魅力を多くの人に知っていただくための情報発信と、リピーターを増やすことが必要です。



市内小学生の埋没博物館見学



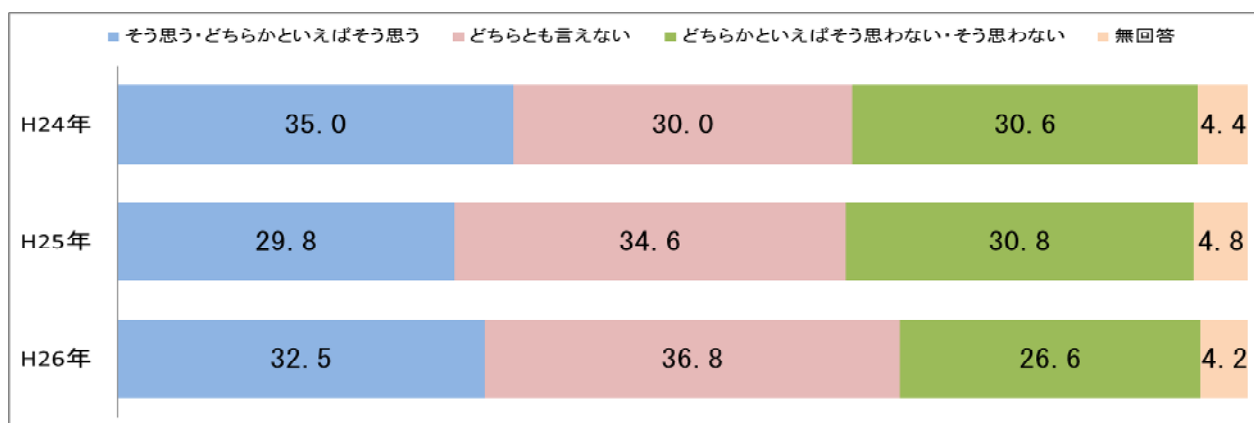
リニューアルした魚津水族館

## (2) 芸術・文化

### 【現状】

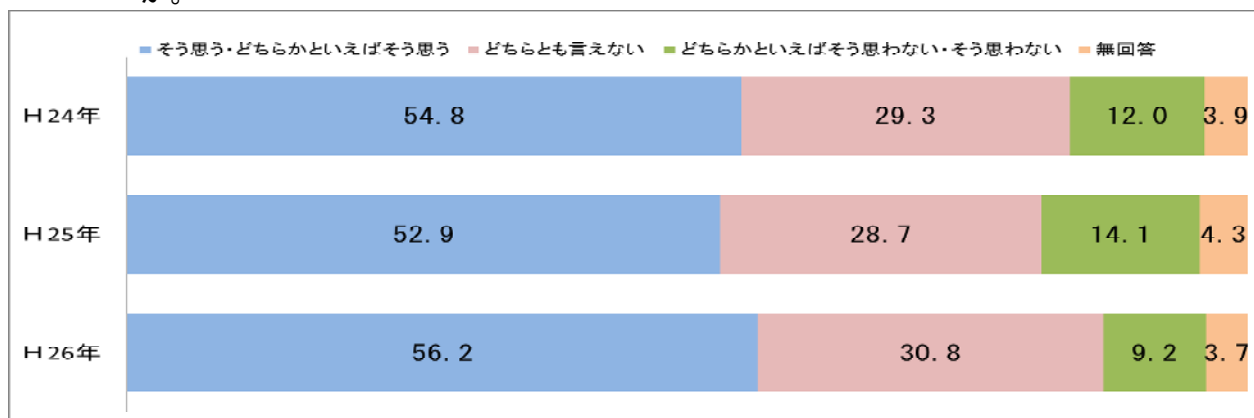
- 文化団体の支援、市民文化祭や市美術展の開催等、市民レベルでの芸術文化活動の活性化を図っています。また、音楽のまちづくり推進事業の実施や学びの森音楽祭の開催等を通して音楽文化の振興に努めるとともに、市内の小・中学生を対象に美術や音楽の団体鑑賞会を開催しています。しかし、まちづくり市民意識調査においては、「芸術文化に触れる機会が多い」と回答している人は、全体の30%あまりにすぎません。
- 市内の指定及び未指定物件も含め、文化財の保存と周知、調査に努めています。また、平成10年に始まった国の重要無形民俗文化財「魚津のタテモン行事」の曳き手不足解消のため、たてもん曳き手ボランティアを募集し、たてもんの運行に協力しています。指定無形民俗文化財保存団体も支援しています。まちづくり市民意識調査では、「郷土の歴史や祭りなどの伝統が継承され、自然に恵まれた文化が豊かであると思う」と回答している人は、全体の50%を超えています。
- ふるさと教育の一環として、副読本の作成・活用を通して、小中学生に魚津の歴史や文化を紹介しています。

(図2-3) 魚津市ではコンサートや美術鑑賞など芸術文化に触れる機会が多いと思いますか。



まちづくり市民意識調査

(図2-4) 郷土の歴史や祭りなどの伝統が継承され、自然に育まれた文化が豊かであると思いますか。



まちづくり市民意識調査

### 【課題】

- 芸術・文化活動に携わる市民の固定化、高齢化の傾向があることから、既存の事業に加え、新たな活動や若い世代を支援するとともに、芸術・文化に直接触れる機会の充実が必要です。
- 文化財の保護・継承については、地元住民の減少や高齢化により、民俗文化財の保存・継承が難しくなってきた状況があり、後継者の育成が急務になっています。
- 国指定や登録等を目指す文化財の調査や手続き、啓発を進める必要があります。
- 国は、平成28年度に「魚津のタテモン行事」を含む「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録を目指していることから、「魚津のタテモン行事」のより一層の保護に関する取組が期待されています。
- ふるさとの文化財の保護・活用を通して、ふるさとの魅力を活かすふるさと教育の機会が求められています。



中学生舞台芸術鑑賞会



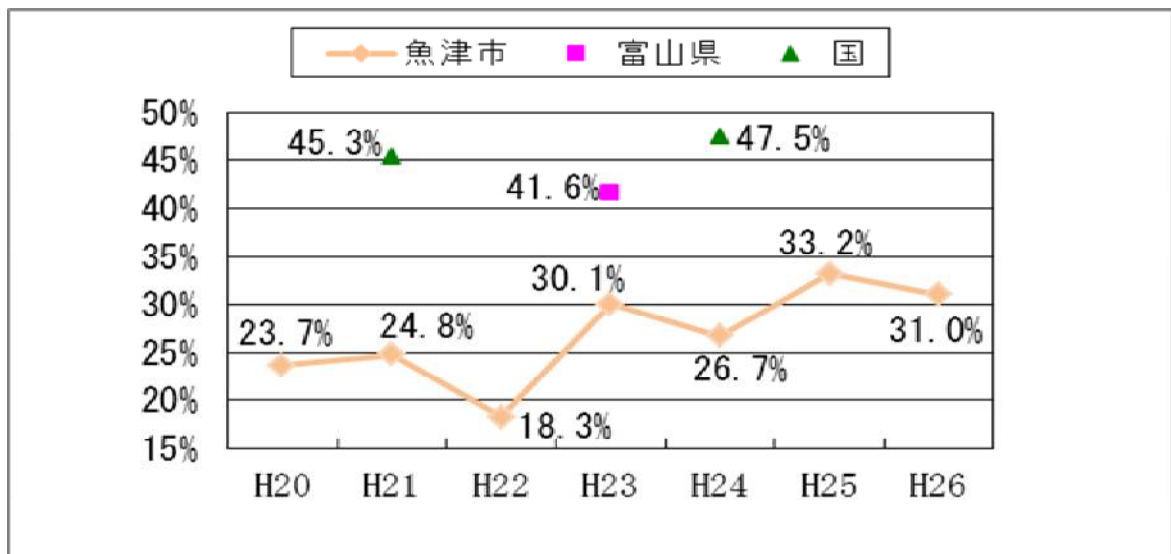
国指定・重要無形民俗文化財  
魚津のタテモン行事

### (3) スポーツ

#### 【現状】

- 魚津市の成人の週1回以上のスポーツ実施率は31.0%（平成26年度市民意識調査）で、国（平成24年調査）の47.5%、県（平成23年調査）の41.6%を下回っています。（図25参照）  
年代別では、20歳代から50歳代の実施率が20%から25%と低く、60歳代以上の実施率が34%から40%と高くなっています。（図26参照）
- 競技力については、成績上位の競技種目も一部ありますが、ここ数年、県民体育大会（二部 12郡市対抗）での魚津市の成績は、一般の部で12郡市中8位前後、中学の部においても9位前後と上位に入ることができなくなっています。
- 本市のスポーツ施設は、市民スポーツ意識調査（平成24年度調査）では、ありそドーム、総合体育館、桃山運動公園を中心に民間施設を含め、充実しているとの回答が65.8%（とても充実している6.5%、まあまあ充実している59.3%）となっていますが、充実していないとの回答も23.3%（あまり充実していない20.5%、充実していない2.8%）もあります。（図27参照）公共スポーツ施設の中には老朽化した施設もあり、改修、整備に大きな費用が必要となっています。

図25 スポーツ実施率（成人週1回以上）の推移



※全国（体力・スポーツに関する世論調査）の平成21年度以前の数値は平成18年44.4%

※富山県（県政世論調査）の平成23年度以前の数値は平成19年37.3%。

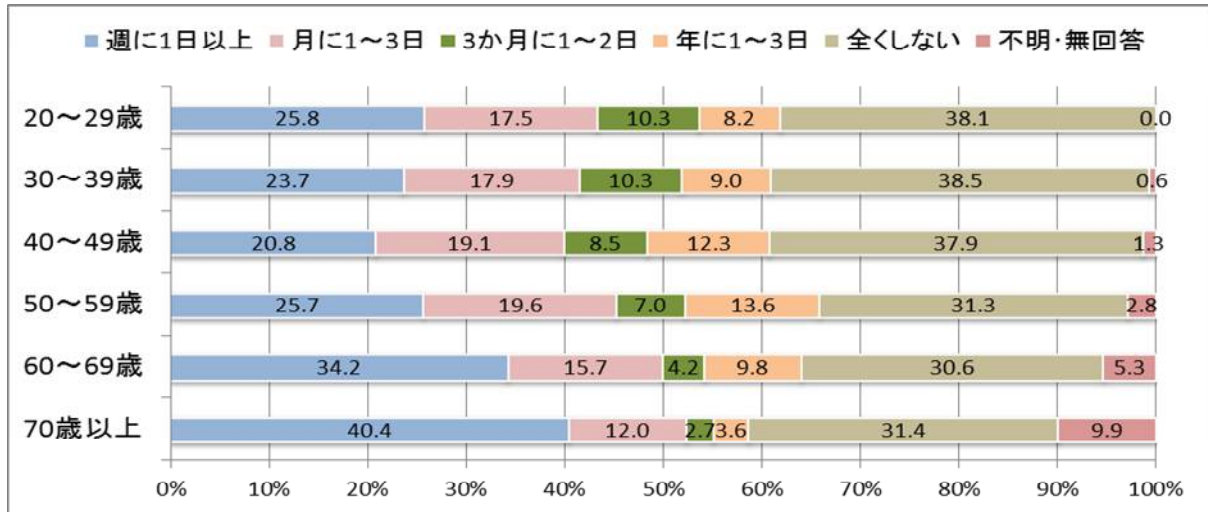


うおづスポーツ・レクリエーション祭

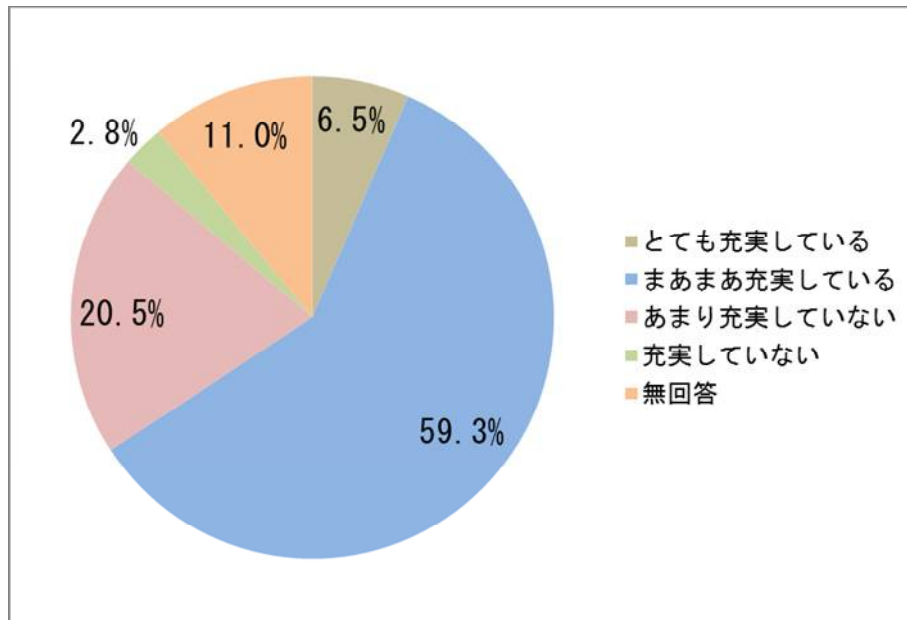


魚津しんきろうマラソン大会

(図 2 6) スポーツ実施率（年代別）の推移



(図 2 7) 施設の充実度



#### 【課題】

- 市民がそれぞれの世代に応じた運動やスポーツを主体的に継続して行えるよう、自由参加のスポーツイベントや教室の開催など、きっかけづくりとなる取り組みの実施や情報の提供により、市民が運動やスポーツに親しむ環境を整える必要があります。
- ジュニア選手を中心とした競技力向上のためには、地域の指導者の発掘、育成に努めるとともに、クラブ組織の育成にも努める必要があります。また、選手がやる気を起こすような取り組みも必要です。
- 市内の公共スポーツ施設の運営は指定管理者との連携により、利用者にとって快適で使いやすい施設となるように努める必要があります。また、魚津市公共施設再編方針に基づき、老朽化した施設の廃止、新設および計画的な改修をする必要があります。